

高齢者のみ世帯向けサービスを紹介します

市では、高齢者のみで暮らしている方の在宅生活の維持向上を支援するため、各種サービスを実施しています。実施している各種サービスを紹介します。

サービス名	内容	対象	備考
①火災警報器等給付	火災警報器のほか、自動消火器、電磁調理器を給付します。	65歳以上の独り暮らしの方（所得制限あり）	申請は、民生児童委員経由で高齢者支援課へ
②緊急通報装置貸与	万一の場合に備え、市が契約する委託業者を通じ、消防署や駆けつけ協力員へ緊急通報ができます。また、24時間「人の動きがない」と通報が入る安否確認センサーも設置します。	65歳以上の独り暮らしの方（所得制限あり）	申請は、民生児童委員経由で高齢者支援課へ
③通院費等助成	通院・買い物など外出時に利用したタクシー料金の一部を助成します。	70歳以上高齢者のみの世帯（所得制限あり）	申請は、直接高齢者支援課へ
④救急医療情報カード整備	万一の場合に備え、マグネット式緊急連絡先カードを配布します。	65歳以上高齢者のみの世帯	台帳（※参照）登録後に送付します
⑤看護師による訪問相談	訪問看護師が定期的に訪問し、体調の確認や相談を行います。	65歳以上高齢者のみの世帯	台帳（※参照）登録者宅へ順次訪問します
⑥配食サービス	定期的な夕食の配食と安否確認を行います。食事代金は実費で、配達・安否確認料は市が負担します。	65歳以上のみの調理が困難な世帯	管理栄養士による事前調査後に決定
⑦資源物等排出支援	新聞紙・段ボール・びんなどの資源物の運搬が困難な世帯を対象に、玄関先まで回収に伺います。	65歳以上高齢者のみの世帯ほか	書類審査などにより決定 【問い合わせ先：環境課衛生係（内線245）】
⑧雪害対策除雪費用補助	積雪による住居の倒壊や損傷を防ぐため、雪下ろし費用の一部を補助します。	65歳以上高齢者のみの世帯ほか（所得制限あり）	申請は、民生児童委員経由で福祉課へ 【問い合わせ先：福祉課厚生保護係（内線255）】

※①～⑤のサービスをご希望される方は、高齢者支援課の「独り暮らし高齢者台帳」または、「高齢者のみ世帯台帳」に登録していただく必要があります。台帳登録に関しご不明な点は、お問い合わせください。

問い合わせ先 高齢者支援課長寿福祉係 ☎（22）2111（内線243）

医療

ご利用いただいていますか ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品とは、先発医薬品（新薬）の特許が切れた後に作られた薬（後発医薬品）のことです。先発医薬品と同じ主成分を使い、効き目や安全性が先発医薬品と同等であると国から承認され、安価で発売されている薬です。3割から5割以上安くなる薬もあり、薬代の負担軽減につながります。

市では、医療費負担の軽減と国民健康保険財政の健全化を図るため、国民健康保険のパンフレット「よくわかる国保のしくみ」にジェネリック医薬品希望カードを掲載するなどして、ジェネリック医薬品の利用促進を図っています。日頃から健康管理に心がけ、定期的に健診（特定健診など）を受けるとともに、ジェネリック医薬品のご利用をお願いします。

差額通知をお送りします

「ジェネリック医薬品利用差額通知」は、薬局や病院で薬をもらっている方が、服用している薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合、薬代

の一部負担額がどのくらい軽減できるかをお知らせするものです。

市では、ジェネリック医薬品利用促進を図るため、国民健康保険加入の次の方に差額通知をお送りします。

○通知対象者

後発医薬品に切り替えた場合、一部負担額の差額が300円以上となる方

○通知の対象となる医薬品

生活習慣病や慢性疾患（ぜんそく、リウマチなど）への効能を持つ医薬品

○通知送付月（年2回）

《1回目》8月上旬（4月調剤分）
《2回目》2月上旬（10月調剤分）

※お受け取りになったジェネリック医薬品利用差額通知書に関するご質問は、通知書に記載のジェネリック医薬品差額通知コールセンターへお問い合わせください。

お問い合わせ先
福祉課国保医療係
☎（22）2111（内線304）

市民リレー元気の輪

No.13

今井多恵子さん
からのご紹介

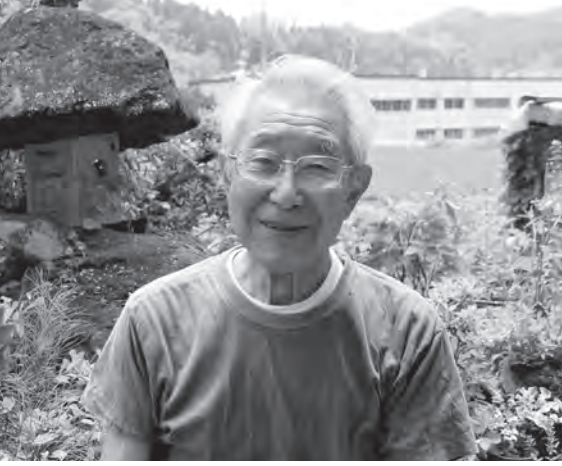


○自己紹介

大学卒業後、東京電力に就職していましたが、長男ということもあり、20代半ばで実家に戻って教員になりました。中野市関連では、平野小学校、中野小学校、豊田中学校にお世話になり、楽しい教員生活を送らせてもらいました。

初めて受け持った教え子はもう70歳を超え、同級会で話をしても、教師と生徒の関係というよりは、昔からのなじみの友人のようで、大きな財産だと感じています。

また、50代後半の時にたまたま見た山野草展がきっかけで興味を持ち、山野草の愛好家グループに入りました。それから30年以上、鉢植えや植え替え、手入れの方法などを仲



とよま しげじ 遠山 茂治 さん (北永江)

間と情報交換しながら山野草を育てています。

山野草の中には、高山植物系の「高級品」もあるのですが、低地で育てようとしても、気候



▲山野草を手入れする遠山さん

が異なるためか上手くいきません。山野草も適材適所で、あるべき場所にはいないとだめなんだと、人間にも通じる部分を感じています。会員の高齢化でグループは昨年解散してしまつたのが残念ですが、増えた山野草を交換し合ったり、今でも仲間と交流を続けています。

○元気の秘訣

原発や国会、外交問題など社会情勢に関心を持ち続けることで、自然と湧き出る喜怒哀楽の感情を大切に、頭と心を活発に使っていることが元気の秘訣かもしれません。

○おらほの自慢

日本中で歌われている唱歌「故郷」のふるさとであるこの地が誇りです。今後はさらに、高野辰之先生をしのぶ作詞コンクールのような発展的な展開を期待しています。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 24



地方創生と中野市

まち・ひと・しごと創生基本方針が安倍内閣で閣議決定され、全国では地方版総合戦略の策定に取り掛かっている。日本の総人口は2008年の1億2808万人を

ピークに人口減少社会に突入した。加えて、人口構成も高齢化が進み、地域社会の活力を如何に維持していくかが、国と地方それぞれ大きな課題となっている。本市においても、人口減少と高齢化が一段と進み、社会福祉や経済活動に大きな影響をもたらすものと考えられる。

私たちに必要なことは、こうした変化を感覚的に捉えるのではなく、客観的統計データで現状を把握し、将来見通しを共有することが大切である。

戦後の高度成長や経済社会の発展は、人口増加と都市への人口集中に支えられたものと言える。今日、人口減少社会へ変化するなかで、私たちは経験したことのない地域経営を迫られることになる。政府はこうした変化に対応し、地方公共団体が自主性・主体性を最大限発揮し、地方創生に取り組み地域の実情に応じた

きめ細かな施策を可能とする観点から「まち・ひと・しごと創生事業費」1兆円を計上し、そのうち人口減少等特別対策事業費に6000億円程度を充てている。

こうした政策のありようは、翻って考えてみると、今、地方に一番必要なのは、行動する力であり人であると思う。素晴らしい施策やアイデアを着実にプロジェクト等に仕上げ、目標達成に向けて中心的に行動してくれる人材の育成や確保が大切だと考える。

私たちの郷土中野市は、豊かな自然環境のなか、古くからこの地域の中心的存在として発展してきたが、こうしたことは、ここにその発展を支える人材が息づいていたということである。この地域ならではの施策展開のためにも、政府の言う創生項目「ひとⅡ地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保」が最も重要だと考えている。

「ローマは一日にしてならず」との言葉通り、私たちの取り組みはこれから半世紀以上にわたって継続的に取り組まなければならない事象であり、息の長いものと肝に銘じなければならぬ。